

【単年度事業評価様式】

港北区地域子育て支援拠点事業  
令和7年度重点目標評価結果・令和8年度重点目標

事業実施期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年度目／5か年度)
事業の実施者	認定NPO法人びーのびーの 港北区こども家庭支援課
事業目的	<p>市民が安心して子どもを産み育て、子育てに喜びを感じることができる社会環境を形成し、子育てを地域全体で支援する地域力の創出に寄与することを目的とします。</p> <p>【事業・施設運営の基本理念】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 港北区における、地域による子育て支援の拠点施設としての運営</li> <li>2 子どもの視点に立ち、すべての就学前児童及びその養育者、並びに子育てに関する支援活動を行う者に関わった運営</li> <li>3 子どもと家庭を支援する各種の行政等機関・地域等との連携を図る運営</li> <li>4 利用者の意見、子育てをめぐる社会情勢、市民ニーズの変化に柔軟に対応できる運営</li> <li>5 子ども及びその養育者の育ちを支援するとともに、養育者自身が事業の担い手として関わることができる視点に立った運営</li> <li>6 地域の人と人とのつながりを広げ、地域ぐるみの子育て支援を目指す運営</li> </ol>
事業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業)</li> <li>2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業)</li> <li>3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業)</li> <li>4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(支援者ネットワーク事業)</li> <li>5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業)</li> <li>6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること(横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業)</li> <li>7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)</li> </ol>
事業の評価実施方法及び評価結果の公表方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 今年度の取組状況や利用者アンケート結果等をもとに、協働契約書中の役割分担表の項目に沿って設定した、今年度の達成目標のうち、当該年度に特に重点的に取り組む達成目標である「重点目標」について、以下の通り、相互振り返りを踏まえた取組成果と課題を公表します。</li> <li>2 今年度の取組状況や成果、課題を踏まえ、次年度の重点目標を公表します。</li> </ol>

## 令和7年度重点目標の評価

<p>令和7年度 重点目標①</p>	<p>子ども・子育て家庭のウェルビーイングを地域社会全体で支えていく風土づくり</p>
<p>取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども家庭庁が提唱している「はじめの100か月の育ちビジョン」において「安心と挑戦の循環」を通して子どものウェルビーイングを高めていけるよう、乳幼児期のこどもの想いや願いを感じ取り、安心して挑戦できる意欲を引き出していくとともに、成功体験を積み重ねていく過程を親や親以外の人も共有していく。</li> <li>●ふれあい遊びや読み聞かせなど、日常的な場面での遊びを通してこどもの気持ちや反応に寄り添いながら応答的な関わりをしていくことで、大人との信頼関係を築き、こども自身が受け入れられ大事にされる経験をするこゝろから自己肯定感を育める環境づくりを意識していく。</li> <li>●多様な年齢が主体的、かつダイナミックに遊び込める居場所として外遊びやお散歩などの企画を一時預かり事業(こども誰でも通園制度を含む)や地域の活動団体とも連携し、こどもの持つ発想力や想像力等を引きだしていくとともに、その可能性を体感することからこどもの成長を喜び分かち合う時間を創っていく。</li> <li>●自然災害や大雨、酷暑などを含めて来館しづらい状況の家庭に対しては、日常のひろばと各家庭とをオンラインで繋ぎ、遊びの時間を共有したり蓄積された遊びの様子をSNS等を活用しながら報告することで、自宅でも連続性のある遊びができたり、人との緩やかな繋がりを通した子育てを実感できるような発信をしていく。</li> </ul>
<p>取組の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●親子が遊びを通して異年齢や集団で遊び込む良さを体感できたり、継続的に体験の場に参加できるように参加意欲のある家庭や外遊びの経験が少ない層に向けても、利用者を巻き込みながら地域団体や保育園とも連携して遊びのプログラムを実施した。</li> <li>●日常的にふれあい遊びや手遊びの時間を設定することで、こどもの好きな遊びをそれぞれの家庭から紹介し合うなど、自宅との連続性のある遊びの機会を創ることができた。また、SNSを活用して外遊びの様子や告知をすることで、地域団体や保育園との協働企画等に促したり、就園家庭にも遊び込める場としての発信と提供をすることができた。</li> <li>●まだ来館したことのない親子に向けた取組みとして、利用者が主体となって初来館向けのプログラムの実施やツールを作成した。利用者自身が経験した来館前の心理的なハードルを元に、実際に場で過ごすイメージ等をSNSで発信したことで、来館の機会を創ることができ、その後の継続的な利用にも繋がった。</li> <li>●ひろばの環境を見直し、こどもの遊ぶ動線や利用者の過ごし方に合わせたレイアウトに変更した。床の修繕を行い、こどもが遊び込める環境を整えるとともに安全面にも配慮した。</li> <li>○親子を拠点や出張ひろばにつなぎ、地域の社会資源に関する情報を伝えることで、安心して外出できるように支援した。</li> <li>○利用者が安全に、安心してひろばを利用できるように、事故や災害発生時の連絡体制の確認を行った。</li> </ul>
<p>取組の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●就園した3歳以上のこどもも含めて、遊びの内容を充実させるためのプログラムを実施しているが、外遊びを含めた遊びの価値の打ち出しとともに、地域の公園遊び団体やサークル等との協働連携がより必要。</li> </ul>

<p>令和7年度 重点目標②</p>	<p>多様な主体との連携による親になる前の体験の仕組みづくりと環境醸成</p>
<p>取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●乳幼児とのふれあい体験授業を通して、生徒に親になるイメージや子育てへの肯定意識が芽生えるとともに、乳幼児家庭にとっても自分の子育て経験が役に立つ有用感など、その相乗効果を教育機関や支援関係者とも共有し、実施方法を学校に相談・提案しながら普及啓発に取り組む。</li> <li>●学生に向けては、ふれあい体験授業や長期休暇中のボランティア体験後にも継続したボランティア活動や子育てサポートシステムの担い手となる研修(eラーニングを活用)等を通して、子育て家庭の現状理解とともに、ひろばでの預かりを試行するなど、日常の子育てに関われる機会を多く創っていく。</li> <li>●6年間実施している4か月児健診受診者対象の調査結果を産前産後支援に関わる専門職、関係機関、支援関係者と共有するとともに、第二子以降向けのプログラムを望む声が多く寄せられ、育児休暇中の父親も増加しているため、第二子以降の家庭や父親等が参加できる事業や取組等を拡げていけるよう強化する。</li> <li>●妊娠期家庭に向けては、区内で実施している妊娠期プログラムや両親教室等で「子育てひろば体験チケット」を案内し積極的に参加を促すとともに、商業施設等とも連携し気軽に参加できるイベントを企画することで、多様な資源に頼りながら子育てをしていくことを知ってもらう機会を創っていく。</li> </ul>
<p>取組の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ふれあい体験授業を継続し新たに3校と連携して9校と実施した。授業の成果を教育機関や支援関係者と共有をするとともに、授業の成果を可視化したリーフレットの改訂や普及啓発活動を強化した。区の校長会で事業説明等をしたことで、学生や親子を応援する仕組みを地区の支援関係者と創ることができた。</li> <li>●20代の担い手として拠点に実習に参加してくれた学生がひろばでの活動を通じて、地域の子育て家庭の実態、制度や仕組みを学び子育て支援の理解が深まったことで、今後の活動を見据えた登録につながった。</li> <li>●プレバパ向け育児座談会では先輩家庭が進行役を担い活躍できる場を創った。プログラムを目指した来館も多く、ひろばサポーター(乳幼児期に利用していた先輩家庭)と共に父親同士の交流の機会を創ったことで、育児休暇中における職場の理解や家庭での役割分担等を考える機会ともなり、職場との両立や育児への参加を促すことができた。</li> <li>●第二子以降向けや父親向けプログラム等を一元化したらしを作成し、申込までのプロセスをわかりやすく視覚化した。労災病院とも連携し第二子以降の家庭に向けてプログラムを実施した。拠点から離れた産婦人科で行われている両親教室で地域情報を案内したり区内産院に情報ファイルを配架することで、妊娠期家庭へのアプローチを強化した。</li> <li>●妊娠期の家庭に向け、日曜開館でも両親教室を実施。土曜両親教室の実績を踏まえて、少人数、かつ実際のひろばの様子を見てもらえる良さなど特色を打ち出すことで参加形態の幅を広げた。実際に利用者との交流の場を持つことで、出産後の子育てや場で過ごすイメージなどを持つことで参加者の不安軽減にも繋がった。</li> <li>○妊娠期から拠点・ひろばの利用を促していくために、体験チケットの内容を見直した。配布方法を拠点と検討し周知を行った。</li> <li>○ふれあい体験授業では区の保健師、助産師も打合せから関わり、赤ちゃん会等で協力家庭の募集を積極的に行った。多様な学生と子育て家庭が交流でき、学び合う機会となった。</li> </ul>
<p>取組の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ふれあい体験授業における学生の実施前後の気持ちの変化等を聴ける機会を創っていくとともに、授業の成果を可視化したリーフレットの周知による授業の成果や価値の共有、普及啓発に向けた教育機関へのアプローチの強化。</li> <li>●学生を含むボランティアの具体的な活動内容の可視化や発信に加えて、継続した活動につなげていくためのボランティア同士の交流や意見交換の場等がより必要。</li> <li>●育児休暇を取得する父親が増えているが、夫自身や夫婦の過ごしについての相談も多いため実態把握が必要。</li> <li>●特に第二子以降の家庭が参加可能なプログラムについて明確に情報発信できるよう努めたが、広報周知などについては今後も検討が必要。</li> <li>○ひろばをより多くの方に利用していただくため「4か月児健診アンケート」や「どろっぷ利用者アンケート」等で利用状況や利用している(していない)理由を把握し、区と拠点が利用者の実態及びニーズ把握を進めていく必要がある。</li> <li>○ふれあい体験授業を引き続き実施できるように、協力家庭の募集や当日に向けた打合せ等を拠点と一緒に進めていく必要がある。</li> </ul>

令和7年度 重点目標③	街づくりを意識した地域活動の可視化と地域への繋ぎによる愛着づくり
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各地区の自治会町内会で実施している各種行事(祭礼や健民祭など)に職員と子育て家庭と一緒に参加し、開催経緯や運営者の方の想いや配慮、場の雰囲気などを伝えることで、地域行事への関心や参加への動機づけを高め、港北区の豊かな歴史や文化に触れる機会を多く創っていく。</li> <li>●地域活動を牽引している自治会町内会の運営者等の協力を仰ぎながら、SNSを活用した地域人材への働きかけを、分野を横断しながら協働で行っていくとともに、個々の意向に合った活動スタイルを提案できるよう、活動内容の一元化と可視化を行っていく。</li> <li>●職員が防災・災害対策に関する研修や地域防災訓練等に参加し、地域住民から学んだ知恵や体験を拠点内の避難訓練の際に利用親子に還元するとともに、「港北区防災・区民生活マップ」を活用しながら、自分の居住地域にある防災拠点を確認するなど、防災における共助の意識を高めていく。</li> <li>●子育て家庭が地域に繋がれる場として、外遊びやワークショップ等の内容を盛り込んだ企画を設定し、地域活動の魅力や運営に携わる人の想いに触れる機会を創るとともに、企画や開催のプロセスから交わり地域の温かさや応援メッセージを体感してもらうことで、地域活動に緩やかに繋がる入口を創っていく。</li> </ul>
取組の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域行事に拠点職員として積極的に参加すると共に、地域行事の際に日曜開館を実施するなど利用家庭が地域行事に積極的に参加できるよう工夫した。地域行事の活動内容や運営者の想い、こどもの成長発達への効果等を広報紙等でも具体的に伝えることで、地域行事への関心や愛着づくりに繋がった。</li> <li>●地元町内会主催の防災訓練や減災展にも参加。拠点での地域開放行事の際には、家庭防災員が防災グッズづくりや展示などを行い、利用者への啓発活動を推進することができた。施設内での月1回の避難訓練では、地震の想定だけではなく、火災、水害を想定した訓練や座談会を行い、地元町内会主催の訓練で学んだことを利用者と共有することで、利用者の防災への意識向上を促した。</li> <li>●地域開放行事は地元の地区社協や連合町内会の協力を仰ぎながら、支援関係者やボランティア等の協力の元、実施することができた。また、新たな地域団体にも参画してもらうことで利用者を繋ぐことができた。</li> <li>○地区支援については定例会や利用者支援定例会で、都度打合せを実施し、進捗や方向性を確認し後方支援を行った。</li> <li>○新たな出張相談会の開催(イオン横浜新吉田店)に向けて拠点と区で調整を行った。</li> </ul>
取組の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●利用家庭の自主活動やボランティア活動等については、その方の意向や想いなどを尊重しながら、町内会自治会や居場所の運営者等との接点を創るなど、連携や丁寧な繋がりがより必要。</li> <li>○ネットワーク毎のニーズ・地域課題を整理し、共有する必要がある。</li> <li>○引き続き、乳幼児健診や訪問、窓口の相談等で拠点の案内を行っていくとともに、こんにちは赤ちゃん訪問員や子育て支援者等からの紹介で拠点利用につながることも多いため、子育て家庭への情報提供を丁寧に共有していく必要がある。</li> </ul>

## 次年度重点目標

<p>令和8年度 重点目標</p>	<p>こどもの育ちを応援する体制構築と家庭との連続性を生む仕組みづくり</p>
<p>取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●こども家庭庁が提唱する「はじめの100か月の育ちビジョン」、及び第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画に基づき、乳幼児期のこどもの意向や想いを丁寧に受け止め、「こども誰でも通園制度」とも連携し、親や地域の多様な人たちとともに、こどもが安心して発信し、挑戦できる場づくりを推進する。</li> <li>●地域の活動団体や保育園と連携し、こどもたちが主体的かつダイナミックに遊び込める居場所として、外遊びやお散歩企画などを実施する。遊びを通して引き出されるこどもの主体性や発想力等を周囲とも共有し、他者との関わりの中で育ち合える環境を整えていく。</li> <li>●日常ひろばでのふれあい遊びや読み聞かせ等を通じ、各家庭での遊びを紹介し合うことでこどもとの応答的な関わりを深め、こども一人ひとりの個性を尊重するとともに、自宅とつながる連続性のある育ちに寄り添っていく。</li> <li>●酷暑や悪天候、自然災害等や物理的にも来館が難しい家庭に対しても、オンラインやSNSを積極的に活用し自宅にいても遊びの時間を共有できる双方向の関わりを持つことで、地域との緩やかなつながりが感じられる発信を継続していく。</li> </ul>
<p>令和8年度 重点目標</p>	<p>多様な主体との「親になる前の体験」を軸とした地域社会全体で育む環境づくり</p>
<p>取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の親子の状況やニーズを共有し、妊娠期からの両親教室やひろば利用を促進することで、育児休暇中から復帰後の子育てを具体的にイメージできるよう支援する。また、就園後の土曜・日曜開館の利用促進や、増加する育児休暇取得中の家庭の実態把握を行い家族支援を強化していく。</li> <li>●区役所で実施している4か月児健診の場を活用し、物理的にも来館しづらい家庭や場への潜在ニーズのある家庭に向けた情報提供の場を設定する。区役所や区内子育てひろばとも連携し、産後間もない時期からの情報発信とともに、居場所としての認知から利用のきっかけ作りを強化する。</li> <li>●乳幼児と学生とのふれあい体験授業では、成果を可視化したリーフレット「生きる力」(昨年度末に改訂)を活用し、教育機関への働きかけを強化する。体験に参加した児童・生徒の声を反映し、命の大切さや親になることへの意識の芽生えとともに、生きる力を育む機会を創出していく。</li> <li>●7年間継続実施してきた4か月児健診調査の結果を、産前産後事業に関わる専門職や関係機関と共有し事業に反映させていく。また、第2子以降の家庭向けのプログラムを望む声や父親からの問合せ相談等も増えている為、ニーズを把握しプログラムの明確な打出しをすることで参加促進をはかる。</li> </ul>
<p>令和8年度 重点目標</p>	<p>地域とのつながりを通して「心のふるさと」と感じられる街づくり</p>
<p>取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各地区の町内会自治会で実施している地域行事には、日曜開館と連動し職員と子育て家庭が共に参加する機会を多く創っていく。地域行事への運営者の想いや場の雰囲気等を直接伝えることで、行事への参加意欲を高め、港北区の豊かな歴史や文化への愛着を育む。</li> <li>●各地区の取組成果(情報発信やマップ作成等)を共有する場を設け、取組経緯や波及効果等を可視化して伝えていく。自分の居住地の取組を知り身近に感じられる機会を創ることで、町内会自治会への案内を促進する。地域活動への関心と参加の意識づけを強化し、SNSを活用することで発信力を高めていく。</li> <li>●職員が地域防災訓練や研修に積極的に参加し、地域住民から学んだ知恵や体験を拠点内の避難訓練等を通じて利用家庭に還元する。「港北区防災・区民生活マップ」を活用し、居住地の防災拠点や取組を確認し合うことで、地域全体で支え合う「共助」の意識を高めていく。</li> <li>●町内会自治会、関係機関、企業等との連携を深め、地域イベントの情報を把握し発信する。SNS等を通じた地域人材への働きかけを行い、ボランティア活動をきっかけとした交流の裾野を広げることで、地域を横断して活躍できる人材の層を厚くしていく。</li> </ul>